

弁護士 崎岡昌一郎	弁護士 海藤 壽夫
弁護士 三浦 正樹	弁護士 三野 昌彦
弁護士 池上 哲朗	弁護士 武田 信裕
弁護士 伊山 正和	弁護士 鈴木 美香
弁護士 野崎 隆史	弁護士 高田 紗織
弁護士 藤原 宏樹	弁護士 河合 亮
弁護士 藤原 宏樹	弁護士 河合 亮

My Life

第76回

を訪ね仕事に挑む熱い思い、今後の目標などをインタビュー。

キャリア・プランに役立てば幸いです。

の ざ き た か ふ み
野崎 隆史さん

[2008年 同志社大学大学院司法研究科修了]

京都総合法律事務所 パートナー弁護士



時を経るほどに「弁護士は天職」の思いが深まっていく 多くの人の日々を支え、社会のために尽くしたい

小学校1年生の時に「将来、なりたい職業」を問われて弁護士と記した記憶があります。もちろん、漠然としたイメージです。当時、連続テレビ時代劇『遠山の金さん』などが大好きだったので、裁判官や検察官に憧れたのかもかもしれません。いずれにしても、「人を助け、世に尽くす…」という仕事があったのだと思います。中学校に進学した時には、大学では法学部に行く決めていましたが、猛勉強を始めたのは司法研究科に進んでからです。早朝から深夜まで勉強に打ち込みました。しかし、意外に勉強は面白く、そのような日々を1年ほど続けていた頃、今も心に残る不思議な夢を見ました。他界した祖父に「勉強が面白いようでは、受からないぞ」と諭されたのです。目が覚め、「もうやめたい!」と思うぐらいに頑張らなければ駄目だと気づき、学び方も「記憶」から「理解」に切り替えました。振り返れば、この判断が功を奏したと思っています。

これまで、京都の景観をまもる弁護団や化粧品被害の救済を図る弁護団等に加わって切磋琢磨してきました。刑事事件では、大阪高裁で逆転無罪判決を得た事件が心に残っています。当番弁護士として最初に接見した時から無罪を確信していた事件でしたので、冤罪を晴らすことができましたときは、嬉しさというより、「ほっと

した」というのが正直な感想でした。

最近では、老舗企業や英会話学校の再生、音楽著作権の保護にも取り組んでいます。企業再生の場面では、スポンサーとして手を挙げてくれた金融機関の担当者が同志社の卒業生だったという縁にも恵まれました。また、ライフワークの一つである環境問題では、京都のエネルギー政策の制度設計や鴨川府民会議等に有識者委員として関与しています。そのような際にも同志社の教授や卒業生と力を合わせて取り組むことがよくあり、多彩な同志社人ネットワークが私の活動の力強い支えとなっていることを実感します。

裁判や交渉以外にも公的な活動や研修・セミナー等も数多く担っており、週末も時間が惜しい状態ですが、「しんどい」と感じることはあっても、「やめたい」と思ったことは一度もありません。弁護士の仕事はやりがいに満ちており、自分の天職だと実感しています。法曹界を目指す後輩の学生達には、法曹はとても魅力的な仕事であること、そして、「必死に突き進めば、必ず目標を達成できる。迷わずに打ち込め! 結果は必ず付いてくる」と伝えたい。私も、新島裏の「Go, go, go in peace. Be strong! Mysterious Hand guide you!」を胸に迷いや不安と対峙しています。

One day on the job



🕒 09:00

一日のはじまりはメールチェックから。最大限即レスがモットー。スピーディーな対応を心懸けています。



🕒 11:00

裁判の合間に事務所の書庫にもって文献調査。気になることは突き詰めるタイプなので、気付けば昼食を忘れることもよくあります。



🕒 14:00

京都弁護士会館での会議。ネット中継も利用し、全国から弁護士が集まって環境マネジメントについて話し合いました。私も京都弁護士会の取り組みについて報告をしました。



🕒 18:00 やす日

夜や土日は講演会を主催することもあります。法律問題にとらわれず、思想・国境・言語・人種等、あらゆるボーダーを超える活動に取り組んでいます。



ドイツ・フェルトハイム村の風力発電設備

番外 海外調査

持続可能なエネルギー政策への転換を目的としたシンポジウムの準備のため、スペインとドイツを訪れ、再生可能エネルギーの調査を行いました。